

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 福岡県 】

築上町立椎田中学校

1 実践テーマ	【 I 】
2 実施対象者	築上町立椎田中学校 3年生75名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 ( 保健体育科 )</p> <p>② 行事名 ( )</p> <p>③ その他 ( )</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ( )</p> <p>② その他 ( )</p>
4 目標 (ねらい)	車椅子バスケットを通して、障がい者スポーツに対する理解を図る。パラリンピックの意義を学ぶ。
5 取組内容	<p>○ 車椅子バスケット体験講話</p> <p>はじめに、パラリンピックや障がい者スポーツの意義を学び、その後、車椅子バスケット体験についての方法の説明を受ける。</p>  <p>○ 車椅子体験</p> <p>ほぼ全員が、車椅子に乗った経験はないために、まず、はじめに車椅子にのる体験からスタートする。</p> <p>車椅子の不自由さをはじめて体験する。</p>  <p>○ 車椅子バスケット体験</p> <p>チームに分かれて、試合形式でバスケットを行う。</p>



6 主な成果

- 車椅子に実際に乗りプレーをすることで、車椅子でスポーツをすることの大変さとそのプレーを実際に行っているパラリンピアンをはじめとする選手の尊さにも気づく。
- 生徒の感想より

車イスも利用している方々を見たと今までは、  
外とかにこれかなにもできないうかと思、ていたけど  
今日の授業で、車イスでもいろんなことができて知りまして

「車椅子でもいろいろなことができると思った。」

車イスに乗って困っている人がいた、手伝おうと思った。

「車椅子で困っている人がいたら、手伝う。」

前は、少し避けていたが、気持ちが変わった。

この体験もして、車イスも利用している方々や障がい者の方に  
対する気持ちが変わりました。  
自分が実際に体験して得るものがあると思いはず。

今まで身の周りに車イスの方などは、少なくあまり考えることが  
なかったけど、階段も大変だし、日々の不便なことも  
あると思うけど、可憐そうじゃなくと感じた...

「前は少し避けていたが、気持ちが変わった。」  
「かわいそうなのではないと感じた。」

やはり、生活する上で、誰かの手を借りなければいけない、こどももあるというのが  
大変なことだなと思った。でも、講義中に見ていたパラリンピックの  
映像で、とても活気にあふれていて、とてもいいと感じた。

「パラリンピックの映像が活気にあふれていた。」

いままでは、車イスに乗って「いる＝不便だ」と思ったけれど、生活は「不便だ」どころで、スポーツも自由にできたので、そういう概念は取り除きたいと思った。

「車椅子は不便だという概念を取り除きたい。」

いいなと思った。共存して生きる社会には、もっと多くのことを自分たちで取り組み、みんなが住みやすい地球にしていきたい。「みんなちがってみんないい」「10人、10色」

「みんなちがってみんないい。十人十色。」

普段車イスに乗っている人の気持ちが改めてわかりました。

「車椅子に乗っている人の気持ちがわかった。」

今日、初めて車イスに乗りました。操作が簡単でやりやすかったです。車イスに乗っている人を見かけた時、ちょっとかわいそうだなと思いました。でも、今日の教室で、バスケットをして、車イスの人でも、楽しめると初めて知りました。障がい者の方達も大変ではあるけれど、中には楽しんでいる人がいるので、この事に関してはいいなと思いました。困っている人がいたら、みんなが楽しんでやる事をして見たいなと感じました。

「車椅子に乗っている人はかわいそうだと思っていたが感じ方が変わった。」

講演はとてもおもしろくて、バスケットは足はつかぬけれど、手がつかぬので、車イスバスケットも大変でつかぬと思います。シュートとか、なかなか入らなくて難しかったです。これから障がい者に対して、積極的にみんなが同じように住める社会をつかっていきたいと思いました。

「障がい者に対して、積極的にみんなが同じように住める社会をつかっていきたい。」

7実践において工夫した点（事業の特色）

- 生徒に、試合を通して車椅子バスケットを実際に体験させることにはとても意義がある。試合形式で時間をかけて取り組みを行っている。
- 車椅子でスポーツすることの大変さと尊さを学ぶことができる。

8主な課題等

- 車椅子バスケットの体験を通して、障がい者スポーツへの理解は深まっているが、その他の機会に障がい者教育との接点がないために、単発の活動になっている面がある。

9来年度以降の実施予定

- 本校では、毎年、生涯学習課の予算で、2学年の生徒を対象に、車椅子バスケットの体験授業を組んでいる。今後も継続して、行っていきたい。